

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑩【県内外や海外の人とのつながり】 ⑪【ボランティア】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】	総合的な学習の時間

1 本校の今年度の復興教育への取り組みの基本構想
 復興教育の全体計画を作成し、教育課程全体と関連づけ実施する。特に、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」「道徳」「安全教育」との関連が深くなっている。
 「いわての復興教育プログラム」との関連では、
 【いきる】については①【かけがいのない生命】を道徳の中で、③【価値ある自分】については特別活動を通して重点的に取り組む。
 【かかわる】については⑩【県内外や海外の人々とのつながり】⑪【ボランティア】⑭【復旧・復興へのあゆみ】を中心に、「総合的な学習の時間」を使って重点的に取り組む。今年度は、ここに特に重きをおいた取り組みとしていく。
 【そなえる】については、社会、理科、技術、保健体育の授業及び避難訓練の見直し工夫などをして取り組む。

2 【かかわる】に関する実践

(1) 復興教育講演会

①ねらい

- ・被災地において、被災の少ない町作りに取り組むNPO法人「桜ライン311」の活動とその考えに接することにより、被災地支援のあり方や自分たちにできる支援を考える機会とする。
- ・今年度、各学年で取り組む「復興教育活動」の下地となる共通体験の場とする。

②対象者 全校生徒

③講 師 岡本 翔馬（おかもと しょうま）氏

陸前高田市 NPO法人「桜ライン311」代表

④演 題 「減災を考えた町作り～桜ライン311の活動を通して～」

⑤講演の概要

- ・東京から震災後に帰って来て、思いを同じくする仲間と「桜ライン311」を立ち上げた。
- ・過去に津波被害を経験しながら、また同じような災害に見舞われたことが悔しい。災害の少ない町作りを考え非力ではあるが努力していきたい。
- ・何十年かかるかわからないが、後世に語り継ぐためにも桜の苗を植え続けていきたい。



《生徒の感想》

- ・津波の恐ろしさがわかった。わずか7分間で高田の町を全て壊してしまった。災害を「他人事」ではなく「自分事」として受け止めていきたい。(3年女子)
- ・1万7千本全て植え終わるのに何年かかるかわからないのに、それをやろうとしていることに感動した。また、100人位でやっていると思ったが、わずか3人の職員しかいないことにびっくりした。(3年男子)
- ・私は地震の時、釜石にいました。「津波てんでんこ」を何度も学校で習い助かりました。あのがれきの中のひまわりが私の心をいやしてくれました。岡本さんの桜も同じような存在になれると思います。(1年女子)
- ・沿岸地区の復興に関して、自分には何もできないと思っていましたが、今日の話聞いて自分にできることもあったと思いました。(2年男子)



(2) 1年生の実践

①ねらい

- ・ 2度の震災被害を受けた祭時地区の復興の様子を見学し身近にあった震災の理解を深める
- ・ 震災に向き合い復興のために努力している2人の方から被災や復興への思いを聞き、これからの生き方を考える。

②実践の概要

2008年の「岩手・宮城内陸地震」で大きな被害があった本寺・祭時地区を訪れ、災害からの復興の様子を見学した。落ちた祭時大橋はそのまま残されており、当時の、写真や橋の構造図などを見ながら、クイズに答える方式で学習した。途中で、復興工事が行われている現場も見学しながら「岩手・宮城内陸地震」のことを学んだ。

また、祭時温泉「かみくら」で被災当時の状況とそこから復興に努めた活動の様子を「いわな養殖業」の佐藤陸三郎さん「かみくら」の女将佐藤奈保美さんの2名から聞き学習した。



《生徒の感想》

- ・ バスで「かみくら」までくる途中の外の風景から、自分が思っていた以上に5年前の震災は大きかったんだなと思いました。陸三郎さんの話を聞いて、被災した人たちの強い心と優しさに感動しました。
- ・ 僕は毎年祭時にスキーにきて、温泉につかっています。今日女将さんの話を聞いて、不利な状況でもあきらめないこと、協力し合うことの大切さ、恩返し気持感謝の気持ちを忘れないことなど学びました。

(3) 2年生の実践

①ねらい

- ・ 昨年から1年たった気仙沼市の現在の復興状況を確認し、これまでの復興の歩みと今後の復興のあり方について考える。
- ・ 震災を後世に伝える活動に参加し、自分たちにできることを考える。

②実践の概要

昨年度、復興学習で訪れた気仙沼を再度訪れ、その後の復興の様子を見学した。活気がもどりつつある気仙沼魚市場、建物が取り壊された小学校跡地、津波と火災の被害に見舞われた鹿折地区などを地元新聞記者の案内で見学した。徐々に復興は進んでいるものの、防潮堤の高さをどうするかという大きな課題が残っており復興は遅れ気味であるということだった。また、震災後に避難所になっていたホテルで支配人の堺さんから話を聞くこともできた。陸前高田に移動し、津波の爪跡が残るラインの境を見学するとともに、「桜ライン311」の方々と協力し、全員で桜の苗木の植樹体験をした。

《生徒の感想》

- ・ 1年前に来たときは暗い感じの魚市場が、見違えるほど活気が出ていてびっくりした。6mの防潮堤ができることはよいことでもあるが、その景色を考えると悲しいことでもあることがわかった。
- ・ 地震の時、家族のこともだが、ホテルのことも心配しなければならぬ状況は大変だったと思う。「人と人とのつながりがありがたい。」という言葉が印象的だった。
- ・ 初めて桜を植えてみて、この桜が大きくなって満開になったら考えるとわくわくします。この桜ラインの活動は参加しやすく、いろいろな価値のある活動なのでもっと広めてほしい。



3 まとめと反省

- 各実践に参加した生徒の態度や感想を見ると、ねらいは概ね達成できたと思う。
- 1年で見学・学び、2年で自分たちができることを考え、3年で実践という形で、今後何年も継続できる「復興教育」の形を模索しながら行った。修正しながら継続していきたい。
- 今年度は、総合的な学習の時間を使用しての活動としたが、生徒個々の目標の設定、課題探求等が不十分なので、内容や取り組み方を改善していきたい。